

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

大正大学では、令和6（2024）年度より、表現学部の入学定員205名（収容定員820名）を30名（収容定員120名）増員し、235名（収容定員940名）とする。うち、新たに設置するメディア表現学科の定員を155名（収容定員620名）、既存の表現文化学科の定員を80名（収容定員320名）とする。なお、公共政策学科の入学定員を30名（収容定員120名）減員することにより、大学全体の収容定員は変更しない。

（現行）

学 部	学 科	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員
仏教学部	仏教学科	100名	33名	466名
社会共生学部	公共政策学科	<u>130名</u>	－	<u>520名</u>
	社会福祉学科	65名	2名	264名
心理社会学部	人間科学科	120名	2名	484名
	臨床心理学科	110名	2名	444名
文学部	人文学科	65名	2名	264名
	日本文学科	70名	2名	284名
	歴史学科	160名	2名	644名
表現学部	表現文化学科	<u>205名</u>	－	<u>820名</u>
地域創生学部	地域創生学科	100名	－	400名
合 計		1,125名	45名	4,590名

（収容定員変更後）

学 部	学 科	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員
仏教学部	仏教学科	100名	33名	466名
人間学部	人間科学科	120名	2名	484名
	社会福祉学科	65名	2名	264名
臨床心理学部	臨床心理学科	110名	2名	444名
文学部	人文学科	65名	2名	264名
	日本文学科	70名	2名	284名
	歴史学科	160名	2名	644名
表現学部	表現文化学科	<u>80名</u>	－	<u>320名</u>

	メディア表現学科	155名	—	620名
地域創生学部	地域創生学科	100名	—	400名
	公共政策学科	100名	—	400名
合 計		1,125名	45名	4,590名

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学の表現学部は平成22年の開設以来、順調にその教育研究と社会貢献を推進しており、教育研究実績も着実に蓄積している。前述した地域・社会的動向等も踏まえ、本学が養成するメディアの使命を俯瞰的に把握でき、情報の受け手を斟酌した表現物創造の重要性を理解し、実践することのできる人材は現代社会において必要不可欠のものであると言える。また、学生確保の見通し調査において、一定数の当該学部学科への進学ニーズが認められている。

以上の状況に鑑み、表現学部の入学定員及び収容定員の見直しを行うこととし、令和6（2024）年度より同学部の定員を30名（収容定員120名）増員し、メディア表現関係のコースを分立して定員155名（収容定員620名）のメディア表現学科を新たに設置するとともに、表現文化学科の収容定員を80名（収容定員320名）に変更する。なお、増員分の30名については、直近の学生募集状況などを総合的に勘案し、公共政策学科の入学定員を30名減員することにより、大学全体の収容定員は変更しない。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更は行わない。今後も、本学の教育内容のさらなる充実を図り、社会や地域のニーズに応えるため、自己点検・評価等を通して、教育課程の検証及び改善に努めていく。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

教育方法及び履修指導方法の変更はない。これまでと同様に、少人数・適正規模で実践を重視した双方向型の教育を推進するとともに、学生一人ひとりについて一定期間ごとの学習の状況を把握し、個別に適切できめ細やかな履修・学習アドバイスを行っていく。

（ウ）教員組織の変更内容

今回の収容定員変更に伴う教員組織の変更はない。収容定員を減じる公共政策学科については、教員組織の変更は行わないため、教育体制については一層の改善が見込まれる。また、定員増となるメディア表現学科についても、学科の専任教員数は大学設置基準に定める数を満たしており、現在と同等の教育体制を維持することが可能である。今後も、本学における学生の教育及び研究推進のために必要十分な教員組織を維持する。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

施設・設備については、大学全体の収容定員の総数は変わらないことから、定員変更前と同等の学習環境を提供することが可能である。従って、今回の収容定員変更に伴う大学全体の施設・設備の変更はない。